

「手入力データの保存から復帰の方法」

JP法研究会 富士栄

J P法株価分システムには、オリジナルデータを手入力し、それをソフトで表示する機能が備わっています。

他社の株価分析ソフトでは、みられない機能の1つです。

しかし、せっかく手入力して溜めたデータも何かの都合でデータが壊れ、データ入れ替えをしてしまうと、全部パーとなってしまいます。

または、データが壊れていなくても、最新のデータをCDから入れてしまうと手入力データは、なくなってしまいます。

※厳密にいうと残っている事のほうが多いのですが、今回は解説しません。

これを避けるためには定期的なバックアップが必要になるわけですが、やり方が分からない、という向きもいらっしゃる事でしょう。

そこで今回は簡単なバックアップモドキの方法と、データをCDから入れ替えた後、手入力データを元に戻す方法を解説していきます。

■保存の方法 「株価修正」を使う

わたしは個人的にコード番号1200番に日銀がETFを買った日を手入力しています。「株価修正」からみるとこんな感じです。

4本値はTOPIX、出来高の項目にETF買いの金額を手入力

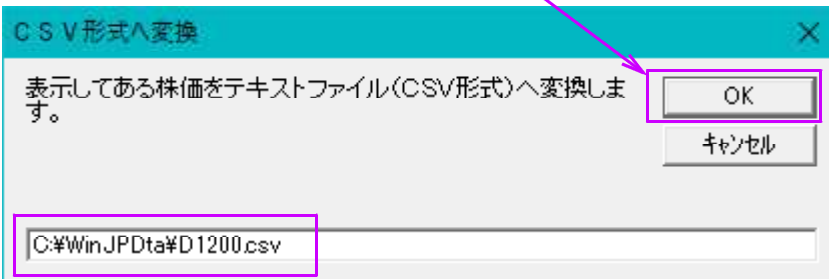
日付	始値	高値	安値	終値	出来高	権利落
2017/03/31	1537	1540	1513	1513	0	0
2017/04/03	1519	1524	1512	1517	0	0
2017/04/04	1513	1514	1496	1505	725	0
2017/04/05	1510	1513	1498	1505	0	0
2017/04/06	1497	1500	1477	1480	725	0
2017/04/07	1491	1499	1478	1490	0	0
2017/04/10	0	0	0	0	0	0
2017/04/11	0	0	0	0	0	0
2017/04/12	0	0	0	0	0	0
2017/04/13	0	0	0	0	0	0
2017/04/14	0	0	0	0	0	0
2017/04/17	0	0	0	0	0	0
2017/04/18	0	0	0	0	0	0
2017/04/19	0	0	0	0	0	0
2017/04/20	0	0	0	0	0	0
2017/04/21	0	0	0	0	0	0
2017/04/24	0	0	0	0	0	0

まずこのデータをバックアップ、保存するには、「CSV」をクリックします。

日足データの場合

下記の意味は、[C:¥WinJPDta]フォルダに[D1200.csv]という名前でデータを保存する、という内容となります。

このままの状態ですべてのデータを保存します。



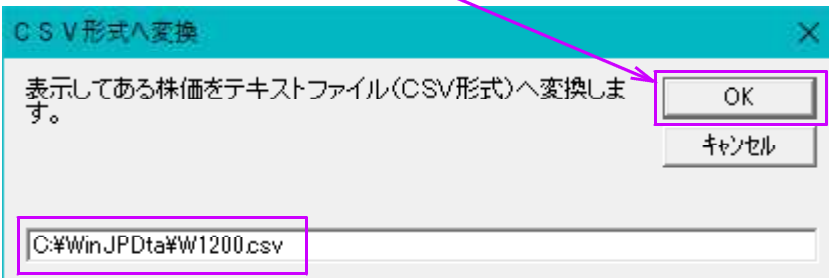
※同じハードディスクなので厳密にいうと、バックアップにはなりません。通常USBメモリへの保存ですが、今回はバックアップモードなので、このまま話を進めます。

たったこれだけの作業で、日足の手入力データは保存されました。簡単でしょう？これなら、1週間に1回程度は出来るのではないのでしょうか？

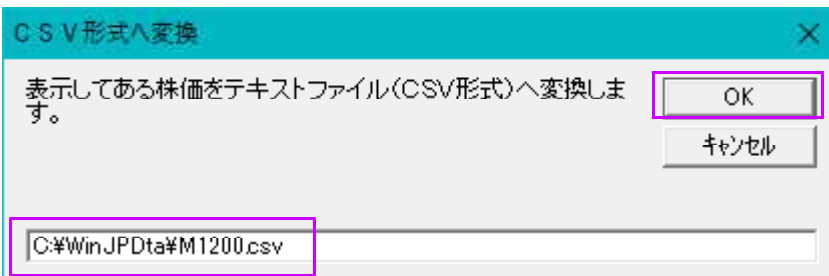
続けて週足のデータを保存します。

「週足」をクリックし、週足データを表示させ日足の時と同じように「CSV」をクリックします。

下記の画面となります。週足なのでファイル名は[W1200.csv]となっています。このままの状態ですべてのデータを保存します。



次は月足です。同様の手順を踏んでください。ファイル名は[M1200.csv]となります。

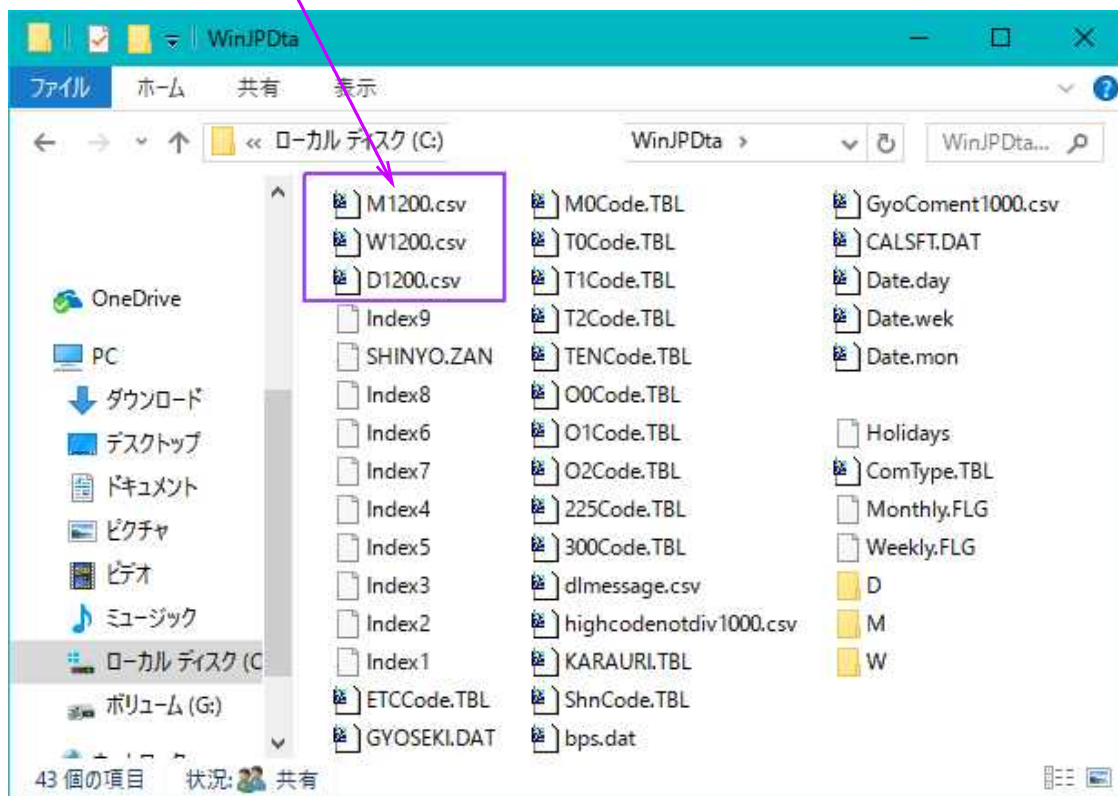


ここまでの手順で、無事コード番号1200の日足・週足・月足データが保存されました。

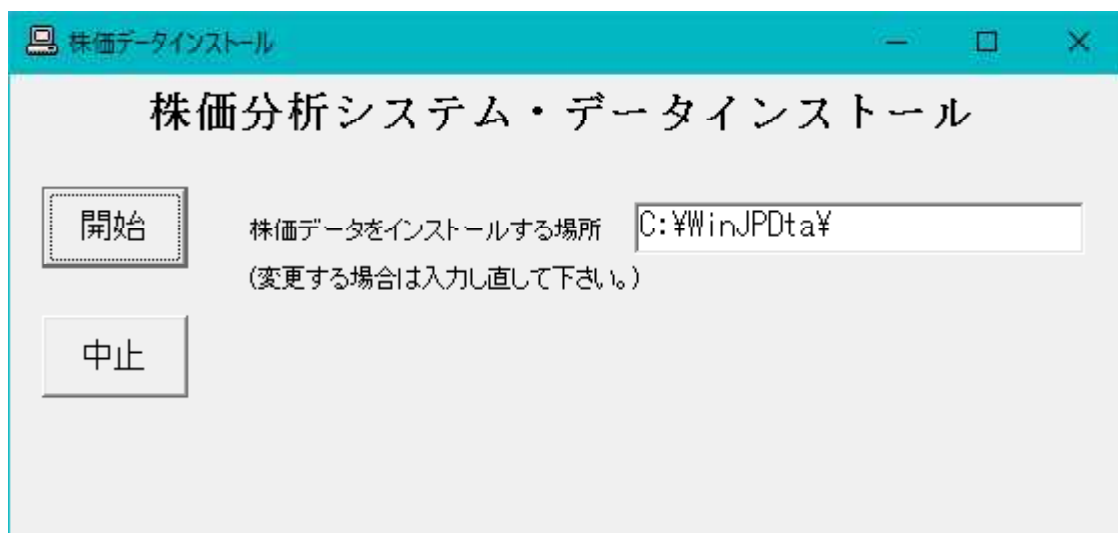
では、本当に保存されているか見てみましょう。

エクスプローラから[Cドライブ]の[WinJPDta]フォルダの中身を見るとこうなっています。

確かに[D1200.csv], [W1200.csv], [M1200.csv]がありますね。



ここで例えば、最新データをCDから入れます。



このデータ入れ替えの作業が行われると、JP法ソフトのデータから手入力データがなくなります。(※実際は見えなくなる)

■枠をつくる 「銘柄管理」を使う

データの入力替えが終了したら、手入力データの枠を作ります。

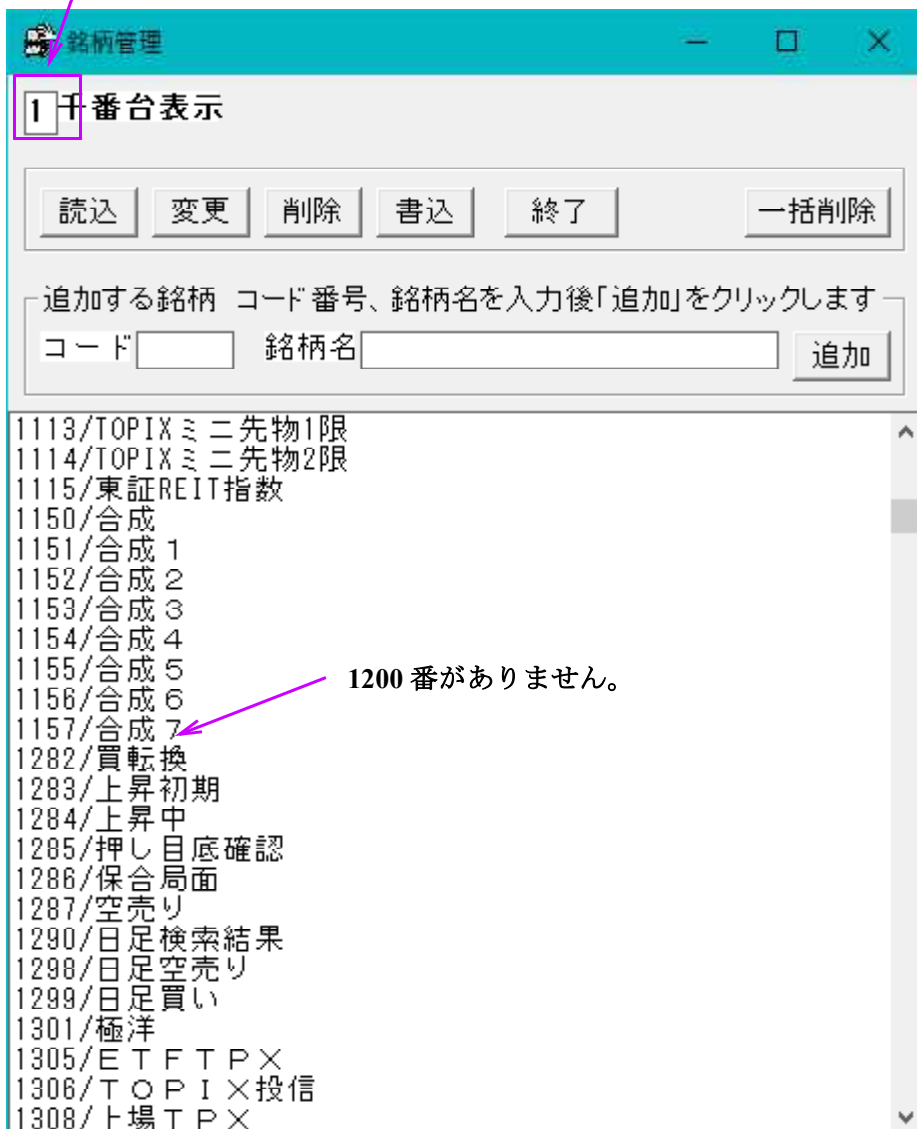
この作業は「銘柄管理」で行います。

通常、手入力データは1000番台に登録するはずですから、1000番台を表示させます。

ここに「1」と入力し、エンターキーを押します。

1000番台の銘柄一覧が表示されます。

下へスクロールさせていくと、確かに1200番がありません。



それでは、1200番の枠をつくっていきましょう。

追加する銘柄の項目にコード番号、銘柄名を入力し、「追加」をクリックします。

銘柄管理

1 千番台表示

読込 変更 削除 書込 終了 一括削除

追加する銘柄のコード番号、銘柄名を入力後「追加」をクリックします

コード 銘柄名

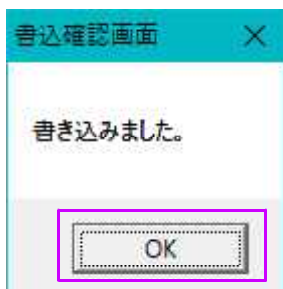
1113/TOPIXミニ先物1限
1114/TOPIXミニ先物2限
1115/東証REIT指数
1150/合成
1151/合成1
1152/合成2
1153/合成3
1154/合成4
1155/合成5
1156/合成6
1157/合成7
1282/買転換
1283/上昇初期
1284/上昇中
1285/押し目底確認
1286/保合局面
1287/空売り
1290/日足検索結果
1298/日足空売り
1299/日足買い
1301/極洋
1305/ETF TP X
1306/TOPI X 投信
1308/上場 TP X

「はい」をクリックします。

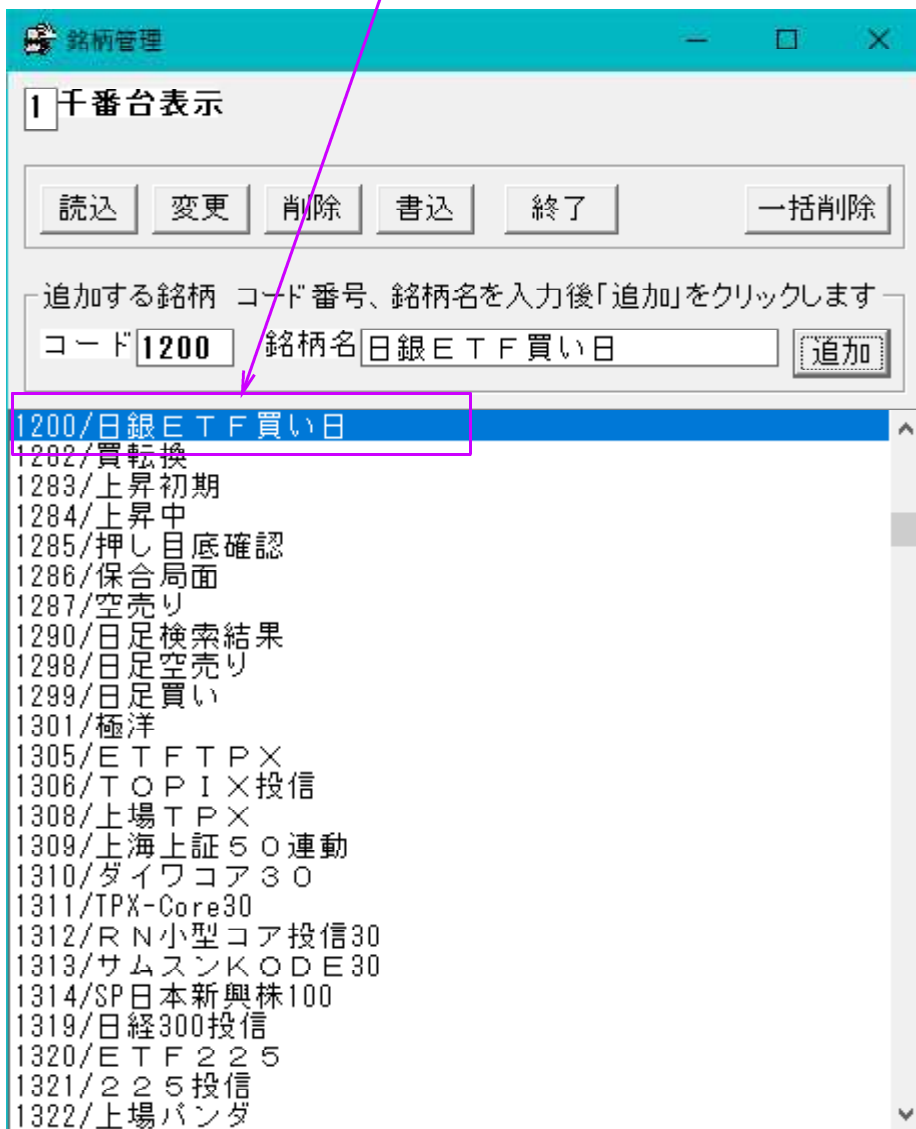
追加確認画面

既に登録されている銘柄は追加しないで下さい。
銘柄を追加しますか？
[1200]日銀ETF買い日

「OK」をクリックします。



1200番、「日銀ETF買い日」がつけられました。



これで枠は出来ましたので銘柄管理は終了します。
次は、先程保存した1200番のデータをJP法ソフトへ戻す作業です。

■手入力データの復帰 「テキストファイル変換」を使う

手入力データの保存→枠を作成と解説してきました。

次は最後の手順である手入力データの復帰方法です。

J P法メインメニューの左列、上から7番目の「テキストファイル変換」をクリックします。

このように表示されます。



テキストファイルー株価データ

読み込みフォルダ+ファイル名 C:¥WinJPDta¥

書き込み先銘柄コード番号

実行 中止

書き込み種別

日足 週足 月足

まず日足データを復帰させます。

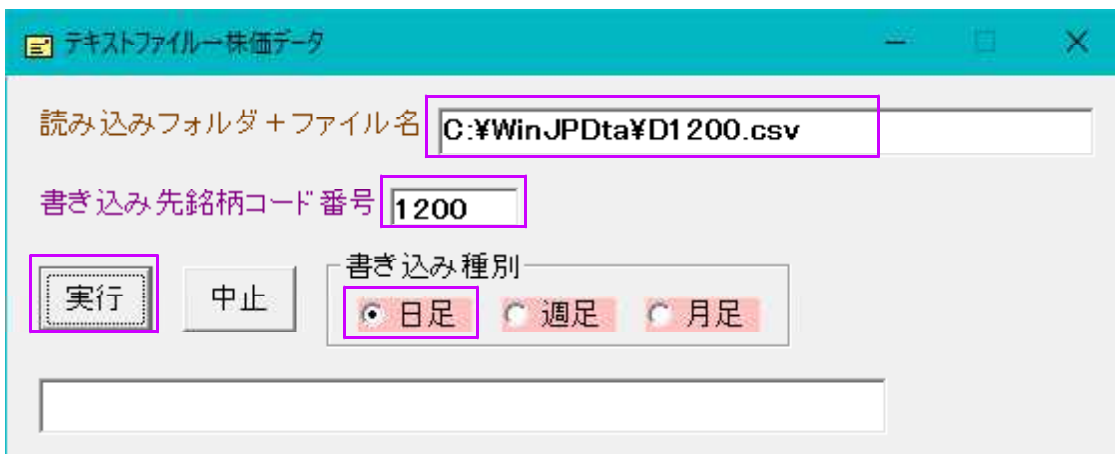
下記のように入力後、「実行」をクリックします。

読み込みフォルダ+ファイル名には C:¥WinJPDta¥D1200.csv

書き込み先銘柄コード番号には 1200

書き込み種別は 「日足」を選択

「実行」をクリックします。



テキストファイルー株価データ

読み込みフォルダ+ファイル名 C:¥WinJPDta¥D1200.csv

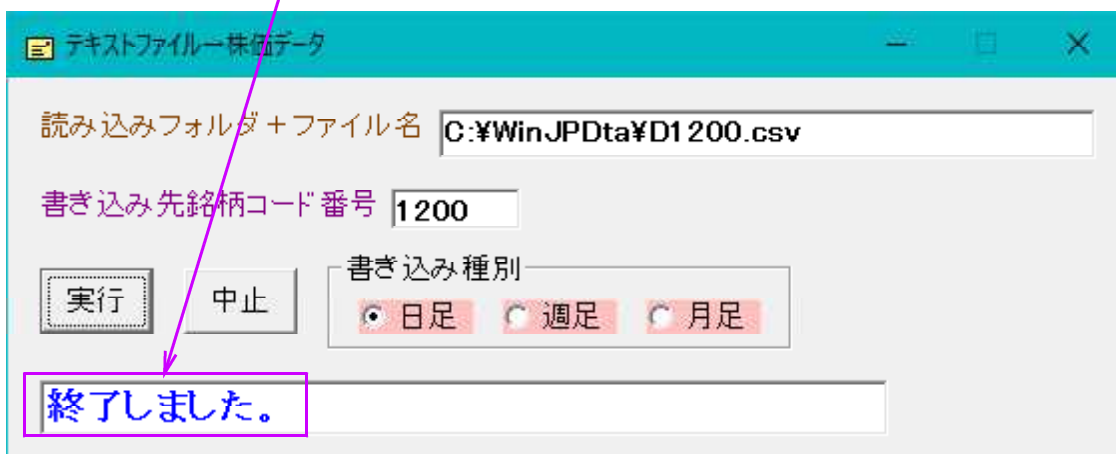
書き込み先銘柄コード番号 1200

実行 中止

書き込み種別

日足 週足 月足

メッセージに「終了しました。」と表示されれば成功です。



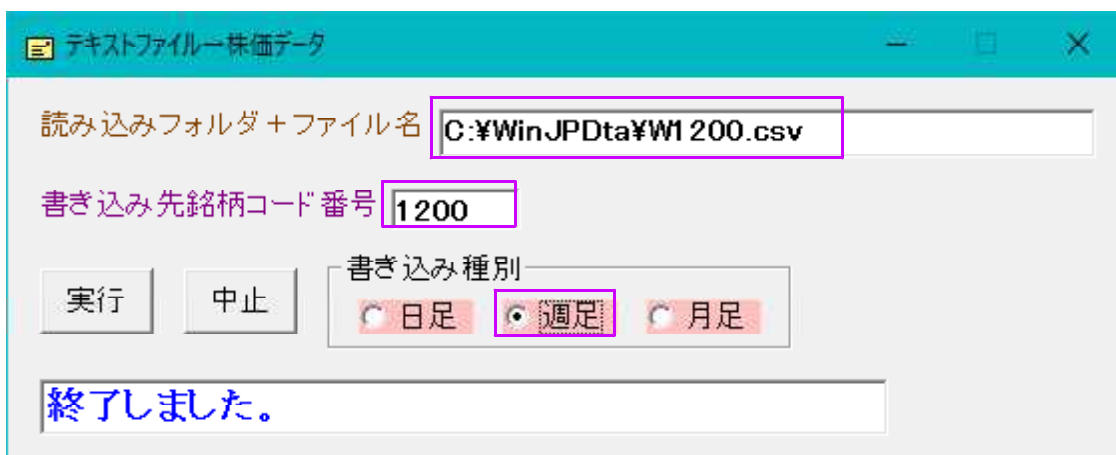
続けて週足を復帰させましょう。

読み込みフォルダ+ファイル名には C:¥WinJPDta¥W1200.csv

書き込み先銘柄コード番号には 1200

書き込み種別は 「週足」を選択

「実行」をクリックします。



次は月足です

読み込みフォルダ+ファイル名には C:¥WinJPDta¥M1200.csv

書き込み先銘柄コード番号には 1200

書き込み種別は 「月足」を選択

「実行」をクリックします。

テキストファイル→株価データ

読み込みフォルダ+ファイル名

書き込み先銘柄コード番号

実行 中止

書き込み種別
 日足 週足 月足

終了しました。

これで作業は終了です。

本当に手入力データが復帰出来たかどうか確認してみましょう。

「株価修正」を使います。

1200番、確かにデータが入っています。

株価修正

日足 週足 月足 読込 書込 印刷 2017/04/05 2017/04/06 2017/04/07 終了

銘柄コード 日銀ETF買い日 週足変換 月足変換 CSV

日付	始値	高値	安値	終値	出来高	権利落
2017/03/31	1537	1540	1513	1513	0	0
2017/04/03	1519	1524	1512	1517	0	0
2017/04/04	1513	1514	1496	1505	725	0
2017/04/05	1510	1513	1498	1505	0	0
2017/04/06	1497	1500	1477	1480	725	0
2017/04/07	1491	1499	1478	1490	0	0
2017/04/10	0	0	0	0	0	0
2017/04/11	0	0	0	0	0	0
2017/04/12	0	0	0	0	0	0
2017/04/13	0	0	0	0	0	0
2017/04/14	0	0	0	0	0	0
2017/04/17	0	0	0	0	0	0
2017/04/18	0	0	0	0	0	0
2017/04/19	0	0	0	0	0	0
2017/04/20	0	0	0	0	0	0
2017/04/21	0	0	0	0	0	0
2017/04/24	0	0	0	0	0	0

数銘柄なら、このやり方で大丈夫ですが、数十銘柄もあると手順がかなり面倒です。今のところ、多数の手入力データを一括で処理する方法はありません。